大日本水産會總裁宮殿下より表彰

五月二十四日大日本水産會總會開會、席上私は同會總裁伏見宮博恭王殿下より表彰狀を親授せられ、多年漁船發動機の製作に從事して漁業の進歩發達に寄與したことを賞せられた。誠に感激に堪へざる所であつた。

功績表彰證

東　東　府
笹　村　吉　郎

夙ニ舶用發動機ノ製作ニ從事シ殊ニ漁船用ディーゼル發動機ノ製作ヲ創始シテ克ク之ヲ完成シ其聲價ヲ博シ以テ漁業ノ進歩發達ニ寄與スル所不尠其ノ功績顯著ナリ仍テ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和五年五月二十四日

大日本水産會總裁　大勳位功四級博恭王　印

六月二十三日鐵工所監査役の改選が行はれたが、其結果齋藤庫之助、中野孝次の兩氏再選重任せられ、新に結城豐太郎氏が當選就任せられた。然るに結城氏は就任後間もなく日本興業銀行總裁に就任の爲め辭任せられた。

十月十二日新潟鐵工所は麹町區丸ノ内三丁目四番地（有樂館三階）に移轉した。

此年春新潟山ノ下工場内に發動機工場を新設して專ら小型内燃機關の製作を行ふ事に決し、三月より新築中であつたが、十二月竣工したので、其製造を開始した。

中原淳藏氏逝去

十二月五日恩師工學博士中原淳藏先生は鄉里福岡の自邸にて逝去せられ、誠に哀悼の至であつた。私の高等工業在學時代には先生に學ぶ處甚だ多く、卒業後も常に先生を德とした。先生は機械工學の權威で、極めて造詣深く、特に其教授法は秩序整然、如何なる難問題も善く學生に了解せしめらるゝので有名であつた。また人格高潔、其生活は極めて質素であつたが、學生に對しては極めて親切で、其教を受けた者は慈父の如く敬慕して居る。先生は明治三十八年八月

阪田博士と同道新潟工場を、大正十五年十月には蒲田工場を視察、其設備の嶄新と、製品の優秀を非常に賞讃せられて、我事の樣に喜ばれた。恩師の溫情今尙ほ忘るゝ能はざる處である。

十二月十八日商工大臣俵孫一氏は蒲田工場に來場、其作業狀況を視察せられた。

藏前工業會館創立總會

昭和六年三月十一日、母校同窓諸君に依り計畫せられ設立進行中であつた株式會社藏前工業會館の創立總會が開かれ、私は取締役の一員として選擧せられたので就任した。

此年六月限り秋田縣土崎港町の新潟鐵工所土崎出張所を閉鎖し、七月十一日から臺北市東門町百十三番地に臺北出張員一名を置く事にした。

八月十八日、昨年來新潟工場に於て建造中の新潟縣浚渫船萬代丸（總噸數四百餘噸）が進水した。同船は自走喞筒式で、主機補機共にニイガタ・ディーゼル機關を採用した本邦に於ける最新式のものである。

九月一日上越線が全通したので、鐵道省は長岡市に於て盛大なる開通式を擧行された。此機會に長岡市主催の記念博覽會が同市に開催せられ、鐵工所はディーゼル機關外六點を出品した。本線の開通に依り新潟と東京とは、距離非常に短縮し、急行七時間にて新潟に到着することゝなり、會社は非常の便利を得るに至つた。

滿洲事變突發と滿洲國成立

九月十八日夜半、南滿洲鐵道沿線柳條溝附近の鐵路は張學良の麾下王以哲の兵士の爲め爆破せられた。茲に於て多年緊張して居た皇軍は奮起して迅速果敢なる行動に出て、旬日を出でずして寡少なる兵力で奉天、長春、吉林其他滿鐵沿線に於ける幾萬の學良軍を掃蕩した。之に依り日本は愈々東洋の平和を確立する重任を荷ひ、國民は常に緊揮一番せねばならぬ千載一遇の時期に際會したのである。

十二月二十六日より鐵工所の柏崎、長岡の兩分工場は單に柏崎工場、長岡工場と改稱せられ、本社に營業部（第一、及第二、三部に二分す）、調査部、蒲田工場に工作、鑄造、設計

及經理の四部、新潟工場に造船、造機、營業の各部が置かれ、各所主任の名稱は工場長、部長、所長と改稱せられた。

昭和七年二月二十八日私は滿洲視察の爲め東京を出發し、大阪に立寄り、神戸から乘船して三月三日大連に到着した。豫ての打合せに依り來山京城出張所長の出迎へを受け此地の滿鐵關係其他を視察し、それより奉天、撫順を過ぎり、朝鮮を經て、三月十四日歸京した。

此の旅行中三月一日滿洲國は愈々正式に成立し、王道樂土建設の爲め溥儀氏三千萬民衆に推戴せられて執政となり、年號を大同元年と稱せられた。

都野豐之進氏逝去

此年三月十五日、銅ケ丸鑛山在勤中特に恩顧を受けた都野豐之進氏萩市越ケ濱なる私邸に於て逝去せられた。氏は銅ケ丸鑛山辭任以來鄕里萩に隱退して種々の事業を計畫著手されたるも悉く失敗に歸し、晩年は不遇であつた。內藤久寬氏も初めは援助された事を知つて居る。都野氏は廉直勤勉且つ至つて親切なる人にて、私は常に其人格を敬慕し、鄕里に歸省する每に訪問して其情を慰むるを常とした爲め、氏も大に滿足されて居た。同氏逝去の報に接し懇ろに弔意を表した。

賀陽宮殿下蒲田工場台臨

四月二十八日、賀陽宮恒憲王殿下には產業奬勵の御思召を以て鐵工所蒲田工場に台臨あらせられた。重役以下工場幹部に謁を賜つた後、私は會社の沿革及製作品の概要を言上し、それより各工場に御案內申上げた處、頗る御滿足の御模樣に拜せられた。御歸還の際は記念撮影の御許しがあり、誠に光榮に存じ、感激に堪へなかつた。

機械學會と私

六月十三日機械學會三十五周年祝賀晩餐會開催せられ、席上私は同會記念資金として五分利公債額面三千五百圓の寄附を申出でた。本機械學會は明治三十年六月創立せられ、斯學の權威者を網羅せる、私等機械工業者の最も關係深き學會で、我國工業界に貢獻した功績は頗る偉大なるものがあ

る。特に其創立が私の鐵工所に就任したと同年であり、私も勤續三十五年となるので、此兩方面を記念し、併せて聊か我國工學工業の發展に資せん爲め、三五に因みて參千五百圓を寄附した次第である。

六月奥村雪子は同家と諒解の下に笹村家に復籍し、七月九日經濟學士古閑英夫君と結婚した。同君は長男寛の學友にて、頗る好都合であつた。

八月一日大阪出張所は大阪西區江戸堀から北區中之島三ノ三朝日ビルディング内に移轉し、十月十日には京城出張所が京城府旭町から長谷川町一一六京城ビルディング内に移轉した。尚ほ臺北に設けた臺北出張員は九月三十日限り廢止せられた。

昭和八年一月一日支配人兼蒲田工場長山口八次君は其兼務を解かれ、參事加藤重男君同工場長に任ぜられた。

非常時局の展開と軍需工業の繁忙　前年來國際聯盟の俎上に上された滿洲事件は、日本全權の懸命の努力に係らず、聯盟各國の東洋に對する認識の缺乏から其主張が認められず、昭和八年二月二十四日我が全權は遂に脱退を宣言して決然引揚を敢行げすることゝなつた。茲に至り國民の意氣は大に昂つたが、併し之に依つて國際協調は破れ、經濟的の壓迫の加はるは勿論、千九百三十五六年の軍縮問題に關する國難の招來は到底免れざるものとして、所謂非常時意識が濃厚になつて來た。

四月二十四日私は藏前工業會の理事に選擧せられ、次で理事互選の結果理事長の重任を汚すことになつた。

前年滿洲事變の突發あり、引續き滿洲國獨立となり、今又聯盟を脱退せる等の事情から、一般に軍需工業は繁忙を極むるやうになり、鐵工所の事業も漸次活況を呈して來た。從て各工場共消極的ながらも增産計畫を立て、是等の工場の施設若くは補充の爲め工作機械五十餘臺を增加すると共に諸種の設備を改善した。尚ほ七月からは多年の懸案であつた電氣鑄鋼を開始したところ、最初より豫期の成績を得て、作業の進捗上利する所非常に多かつた。是等の爲め當年前後期を通じて殺到した注

文を消化することが出來て、相當の成績を擧ぐるを得た。

十月十二日から三日間、蒲田工場で製作を了した車輛用の百馬力輕量高速ディーゼル機關を試運轉して關係方面の批判を求めた處、好評を得た。

鐵工所の增資

十月十八日鐵工所臨時株主總會開催、現在資本金四百萬圓を六百萬圓に增額すること竝に之に伴ふ定款の改正が提案せられ、滿場一致で可決せられた。差當り四分の一の拂込を徵し、主として新潟、蒲田兩工場の設備の增加改良に充て、製產の增加を計ることにした。

十一月五日新潟市山ノ下旋盤工場東部電氣室から發火したるも、一部の職工は撤夜作業中なりしと、幸にして微風なりし爲め、本工場の一部を燒失したるに止まり實際の損害の比較的輕かつたのは仕合せであつた。私は折柄神戸市に開催の機械學會大會に出席の爲めオリエンタル・ホテルに宿泊中であつたが、同朝四時頃火災の電報に接したけれども、損害輕微とあるので、同日の見學は豫定通り出掛けた。

十一月、蒲田工場にて製作中の滿鐵納ディーゼル機關車用七百五十馬力ディーゼル機關二臺竣功した。本邦では極めて目新しいもので、試運轉の成績も良く、斯界の注意を惹いたことは愉快に堪へない。

李王殿下新潟工場台臨

昭和九年二月十五日李王垠殿下新潟市山ノ下なる鐵工所工場を御視察あらせらるゝ由縣から通知があつたので、私は其前日新潟に出張した。殿下は同日午前十時四十分頃自動車にて山ノ下工場に台臨あらせられ、事務所で謁を賜つた上、私は御案內の光榮に浴した。

鐵工所創立四十年祝賀會

本年は明治二十八年新潟鐵工所創設以來四十年に相當するので、二月二十七日の重役會に於て、其祝賀會を六月下旬質素に催すことに定めた。

關係の公共事業

私は現に株式會社新潟鐵工所取締役社長在任中であるが、此外左記公共事業に關係して居る。

工業品規格統一調査會委員
東京鐵工機械同業組合代議員會長及第一部長
社團法人藏前工業會理事長
同　帝國鐵道協會評議員、勞働調査委員
同　機械學會監事
同　日本動力協會評議員
同　日本工業倶樂部勞働調査委員
關東産業團體聯合會常務委員
社團法人帝國海軍協會評議員
同　漁船機關士協會顧問
山口縣教育會名譽會員

結　言

筆を擱くに當り特に痛切に感ずるのは、私が偶々幼少時代に貧困窮迫の生活を體驗した事が、却て私の一生を通じての幸福の原因となつた事に就てゞある。卽ち

（一）發奮して速に扶養の義務を盡さんと志したこと。
（二）世の困難に堪ふるを得たこと。
（三）一錢一物の貴重であるを知つたこと。
（四）勞働の體驗に依つて常に從業員に同情を拂ふたこと。
（五）父の失敗に鑑み常に事業に細心の注意を拂ふたこと。

等で尙ほ父母、恩師の訓戒は勿論、鄕里に於ける先輩の事績の見聞に依り忠孝、友愛、正直、公平、報恩等の思想は相當に注入せられ、自ら亦之を實行せんと念願した。特に我國體に對して絕對の感謝を捧げ、一意奉公の念に燃ゆること人後に墮ちざるものであ

る。尙ほ私は新潟鐵工所の事業に關係して玆に三十八年、內には內藤、山口、橋本等先輩諸氏の懇切なる指導と、同僚及從業員諸君の一致協力の援助を受け、外は恩師、先輩、學友諸氏の同情に依りて幸に大過なく今日を迎へ、多少國家に貢獻するを得た事は、私の感激措く能はざる處で、此機會に於て深甚なる感謝の意を表する次第である。只不肖微力にして、會社の發展に關して尙ほ甚だ遺憾の點多く、誠に慚愧に堪へない。

近年私は修養の爲め佛敎に志し、朧氣ながら得る事尠からず、今後此方面に一層勉强して國家社會に奉仕する積りである。從來私は「足るを知つて感謝の念起る」を座右の銘としたが、凡ての物の「有難さ」を說く佛敎の敎に接してから、十方に對する感謝の情が一入深くなつたやうな氣持がする。本書の卷頭に「感謝」の二字を題したのは今の私の心境を有の儘に告白したものである。

此稿を終り將に上梓せんとするに當り、本書に大いなる光輝を加ふべき一事が生じた。卽ち本年六月新潟鐵工所創立四十年記念祝賀式の擧行せらるゝに際し、從業員一同より私の胸像一基を贈與せらるべき內談を受けた。私は深く其厚意を謝すると共に計畫の中止を乞ふたが、一同の切なる希望故是非にとの事であり、遂に之を受くることにした。是は明治三十年以來三十八年間同社に從事した私に取つては全く絕好の記念品で、私自身は勿論、一家を擧げて最も光榮とし、深く感銘するところである。卷首に其寫眞を掲げ玆に衷心より謝意を表するものである。

笹村吉郎年譜

慶應三年（丁卯）一歲　四月十一日出生
二歲
四（明治元）
明治二　三歲
三　四歲
四　五歲　初めて金錢を叔母より受く
五　六歲　三月十四日石見國の大地震に驚く
六　七歲
七　八歲　初めて寺小屋式私塾に入る
八　九歲　川島小學校創立に付入學す
九　十歲　十一月二十九日萩城下に前原一誠の亂あり、避難す
十　十一歲　此前後兩親の米搗きを手傳ふ
十一　十二歲
十二　十三歲
十三　十四歲　父の藍玉製造を手傳ふ
十四　十五歲
十五　十六歲
十六　十七歲　山口縣立師範學校に入學す
十七　十八歲
十八　十九歲　七月三十日山口行幸の明治天皇を拜す、十一月師範學校卒業
山口縣厚狹郡船木小學校訓導兼校長に任ぜらる。
十九　二十歲
二十　廿一歲　四月一日船木尋常小學校長兼訓導に任ぜらる、十一月十九日

父吉郎隱居につき家督相續す。

明治二十一	廿二歳	美吉榮子と結婚す。七月七日教職を去り上京す
二十二	廿三歳	九月職工學校（後の東京高等工業）に入學す
二十三	廿四歳	
二十四	廿五歳	十一月二十一日父吉郎萩に於て死去す
二十五	廿六歳	七月東京工業學校（職工學校改稱）機械科を卒業す
		十一月十六日島根縣銅ヶ丸鑛山に就職す
二十六	廿七歳	二月郷里萩より妻を銅ヶ丸に呼寄せ同棲す
		秋母を萩より銅ヶ丸に迎ふ
二十七	廿八歳	六月五日長女靜子生る
二十八	廿九歳	
二十九	卅歳	三月六日二女峯子生る
三十	卅一歳	八月銅ヶ丸鑛山を辭職し、新潟鐵工所技師長として赴任す
三十一	卅二歳	
三十二	卅三歳	四月二十日新潟鐵工所所長に任ぜらる
		七月十八日母ふく新潟市に於て死亡す
三十三	卅四歳	二月十四日長男寛生る
		四月歐米視察の爲出發、十二月末歸朝す
三十四	卅五歳	
三十五	卅六歳	七月二十七日二男越郎生る
三十六	卅七歳	
三十七	卅八歳	
三十八	卅九歳	
三十九	四十歳	

明治四十　四十一歲
四十一　四十二歲　一月二日四十二歲の祝を催す
四十二　四十三歲　七月新潟市西大畑に新築中の自宅落成す
四十三　四十四歲　六月十七日株式會社新潟鐵工所設立、專務取締役に就任す
四十四　四十五歲
四十五（大正元）　四十六歲
大正二　四十七歲　六月二十二日新潟鐵工所取締役に重任す
三　四十八歲　三月二十二日長女靜子、大塚健治と結婚す
四　四十九歲
五　五十歲　二月二十九日襲名して萬藏を吉郎と改む
六　五十一歲　六月二十日新潟鐵工所取締役に重任す
七月三日新潟より東京に轉住す

七　五十二歲　十二月二十三日二女峯子、西村輝惠と結婚す
八　五十三歲　六月二十三日新潟鐵工所取締役に重任す
九　五十四歲　五月朝鮮滿洲地方へ旅行す
十　五十五歲　九月十三日工業品規格統一調査會委員被仰付（內閣）
十一　五十六歲　六月二十三日新潟鐵工所取締役に重任す
八月十四日新潟縣より新潟港是調査委員を囑託せらる
十月七日新潟鐵工所勤續二十五周年の祝賀會を催す
十二　五十七歲　九月一日關東大震災に遭遇す
十三　五十八歲
十四　五十九歲　六月二十四日新潟鐵工所取締役に重任す
十五（昭和元）　六十歲

昭和二　六十一歳　五月四日東京發福岡へ出張、次で朝鮮地方を視察し二十一日歸京す

六月十八日長男寛、片山三郎長女靜子と結婚す

六月十九日還暦の心祝を爲す。

十一月二十日三女雪子奥村敬五郎と結婚す

三　六十二歳　六月二十六日新潟鐵工所取締役に重任す

四月機械學會講演大會臺灣に於て開催に付三月三十一日東京發同地に旅行、四月十九日歸京す

四　六十三歳　五月十六日長男寛歐米視察の途に上る

六月十八日女婿奥村敬五郎奉天に於て死亡す

六月二十四日新潟鐵工所社長に就任す

同月片瀨の別宅落成す

五　六十四歳　九月二十五日妻死去す

四月十九日二男越郎、遠藤藤吉氏二女長子と結婚す

五月二十四日大日本水産會にて表彰せらる

六　六十五歳　三月十一日株式會社藏前工業會館創立せられ取締役に就任す

六月二十六日新潟鐵工所取締役社長に重任す

七　六十六歳　二月二十八日滿洲視察の途に上り、三月十四日歸京す

六月三女雪子、古閑英夫と再婚す

八　六十七歳　四月藏前工業會理事長に就任す

九　六十八歳　本書を刊行す

昭和九年六月二十三日印刷
昭和九年六月二十六日發行

—【非賣品】—

著作兼發行者　東京市小石川區水道端二丁目五十二番地　笹村吉郎

印刷者　東京市本所區厩橋一丁目二十七番地ノ二　井上源之丞

印刷所　東京市本所區厩橋一丁目二十七番地ノ二　凸版印刷株式會社本所分工場